

## 「久礼大正町市場」

## 高知県中土佐町

大正町市場は、明治20年(1887)頃に漁師のおかみさん達が、夫や息子の獲ってきた赤ジャコを煎ってト口箱の上で売り出したのが始まりである。その後、魚屋、肉屋、八百屋などの店が徐々に増え、久礼町民の台所として栄えた。

現在、魚屋、八百屋、呉服屋、総菜屋、和菓子屋が店舗で営業している他に、漁師のおかみさんが魚や自家製の干物(アジ、カマス、ウルメなど)を、農家のおかみさんが野菜を、リヤカーで運びト口箱の上に並べて販売している。また、市場で購入した魚や干物を食べることができる食堂もある。大正町市場は原則として年中無休でお昼前から午後4時頃まで営業しているが、海が荒れた時には鮮魚の販売はない。

大正町市場は、大正町連合商店街組合によって「昭和30年代のイメージ」をコンセプトに運営され、当時の活気と人情味あふれる生活文化を蘇らすことを目標としている。

また、周囲には潮風の薫る路地裏風景や久礼湾の双名島、久礼八幡宮、県下最古の酒蔵、町立美術館などもあり、歴史的な背景を大事にしつつ、人々に漁村の良さを伝える努力がなされている。



市場の風景



市場の風景

### みどころ



- 双名島：久礼湾に浮かぶ二対の島。毎年、台風の大波で悩まされていた久礼の浦に、鬼の親子が大きな岩を運び、人々を助けたが、そのまま双名島になってしまったという伝説がある。土佐十景の一つに数えられている。
- 久礼八幡宮：社のいわれは不明だが、この地に鎮座以来漁師たちの信仰も厚く、漁の無事を祈る女性たちの姿が絶えない。毎年、旧暦の8月14日から15日にかけて、土佐の3大祭りの一つ「久礼八幡宮大祭」が開かれ、何万人もの観光客が訪れている。